ト仰ラル、尤モ昔後西院ノ御所望ニテ、常修院殿○慈胤法親王ノ臺天目ダテナサレタルガ、ソノ後所望シテナラヒ置カレタレドモ、終ニ出サレタルコトハナシ、御前ニハ、文昭院殿○德川家宣ヨリ進セラレシ、名物ノ天目ヲモ御所持ナサレ、臺モ名物ノヲ二ツ迄御所持ナサレタレバ、イヅレ何時ゾハ遊バスベシト思召也、昔ノ人ハ、某ニハ名物ノ天目アリテ、臺天目ノ茶湯アリトテ、ウラヤミシコト也、私ニイザトテ天目立ヲスルコトニハアラズ、世間流ノ臺ダテノ心持ナレバ、坊城ノ評ハ、其方ガ云ゴトクニテモアルベキカト仰ラル、ソレニ付、其方ナドガ臺天目ダテヲ習ヒシハ、臺ハフクコトカト御尋アリシ故、其通リ也ト申上グ、茶碗ハオロシテ湯スヽギヲスルカト仰ラル、其通也ト申上グ、仰ニ、コレモ二ヤウアリ、大事ノコト也、唐物ノ臺ニテモ、只ノ塗物ハ、ヤハリ臺ニスエテ湯スヽギスルガヨシ、組モノヤ、グリナドノ臺ハ、オロシテ湯スヽギスルガヨシ、ソレナゼナレバ、ヒヨツ　湯ガ臺ノ上ニコボルレバ、何トシテモフクコトガナラヌ器也、ソレユヘノコト也ト仰ラル、

盆點作法

〔茶之湯六宗匠傳記〕千利休宗易居士自筆寫

一盆點當代通法の大鉢にて、茶入を右にて取上、末に有ごとく袋さばきをして、茶入をてに置、帛巾物をとり出し、盆をふくさ物ながら右にて取、左の手にて盆のふちを持、順にまわし、緣を巾い、内をのごひ、扨左の方のふちの角にてふき治め、又ふくさ物ながらふちを持、左のゆび先をふちの外へ掛下に置、先盆のひづみを能直して、扨茶入右にて取、左へ渡し、美敷持て右にてふくさ物を取、右のひざの上にて帛物を取、能樣に取持、蓋から肩胴まで能々品を合せ、目にたゝぬ樣に口のごひて、帛物を腰にはさむか、懷に入るかして、茶入を右にて盆の眞中に可置、正面を見すること前に書たる如し、扨三角の印の所へ置たる茶碗を、右にて前へ引寄、帛を左の手に乘、茶酌をのごひ、盆の右のふちのきわに置也、